再評価結果（平成１６年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名	一般国道２７８号　尾札部道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道茅部郡南茅部町字尾札部 至：北海道茅部郡南茅部町字大船			延長	１４．８ km

事業概要

一般国道２７８号は、函館市から茅部郡森町へ至る延長約１１４ｋｍの主要幹線道路である。

このうち尾札部道路は、南茅部町尾札部から南茅部町大船に至る延長１４．８ｋｍの１次改築事業で、南茅部町市街部の通過交通の転換による道路交通の安全性・確実性の向上、日常活動圏中心都市へのアクセス強化等に寄与する。

Ｓ６１年度事業化	Ｓ－年度都市計画決定	Ｓ６３年度用地補償着手	Ｈ元年度工事着手

全体事業費	約１８７億円	事業進捗率	５１％	供用済延長	６．０km
計画交通量	５，２００台／日				

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) １．５ (残事業) ２．８	８２／２０２億円 事　業　費：61/164億円 維持管理費：21/37億円	２３２／２９４億円 走行時間短縮便益：224/291億円 走行費用減少便益：7/2億円 交通事故減少便益：1/1億円	平成１５年

感度分析の結果

事業全体について感度分析を実施

交通量変動：Ｂ／Ｃ＝１．６（交　通　量+10%）　Ｂ／Ｃ＝１．３（交　通　量-10%）
事業費変動：Ｂ／Ｃ＝１．４（事　業　費+10%）　Ｂ／Ｃ＝１．６（事　業　費-10%）
事業期間変動：Ｂ／Ｃ＝１．３（事業期間+20%）　Ｂ／Ｃ＝１．６（事業期間-20%

事業の効果等

・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市（函館市）へのアクセス向上が見込まれる）
・災害への備え（孤立化する集落を解消する）　他9項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

尾札部道路は、地域間交流の促進と連携の強化等に重要な役割を果たすことが期待されており、函館市をはじめとする関係１市７町村の首長及び議会議長で構成される国道２７８号線整備促進期成会等３つの期成会と南茅部町より早期整備の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成１２年には縄文時代最古の漆製品が出土し、また、大船遺跡速報展示室が建設されるなど、貴重な文化遺産である縄文遺跡を活かした観光需要が高まっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

尾札部道路は、昭和６１年度より事業着手しており、昭和６３年度には用地補償、平成元年度から工事に着手し、平成１４年度までに延長６．０ｋｍを完成供用している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き用地補償及び工事を促進し、早期供用に努める。

施設の構造や工法の変更等

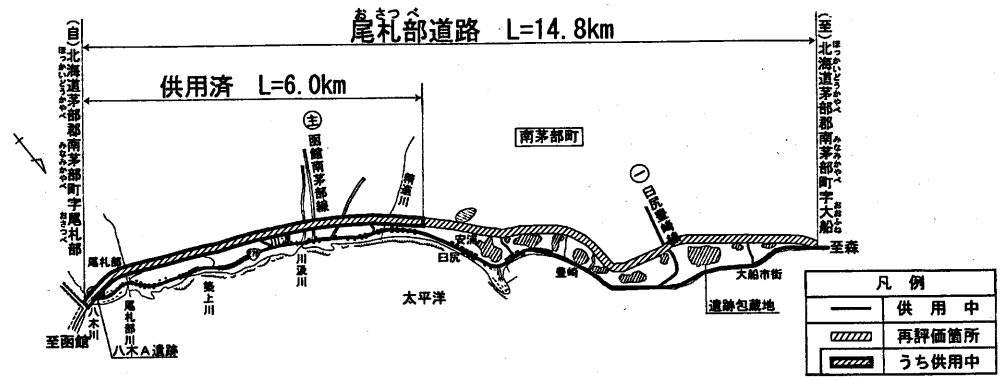
補強土壁の採用や縦断勾配の見直しを図る等コスト縮減を図っている。

対応方針　事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。